

第25回日本テレワーク学会研究発表大会（淡路島大会）大会報告

第25回日本テレワーク学会研究発表大会開催主旨

【Theme】～The Future of Work beyond Telework-仕事の未来形：テレワークを超えて～

第25回日本テレワーク学会研究発表大会 実行委員長 加納郁也（兵庫県立大学）

新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針が令和5年5月8日に廃止され、新型コロナウイルス感染症の世界的拡大から3年余りの期間を経て、ようやく行動制限のない社会生活や仕事生活が戻ってきました。この間、在宅勤務を中心としたテレワークは急速に普及し、社会において一定の定着をみえています。こうした実態は、もはやテレワークが特別な働き方あるいは新しい働き方ではなくなったことを示しており、本学会におけるこれまでのさまざまな研究発表やディスカッションにおける議論が実現してきているといえます。

その一方で、新たな課題が顕在化してきました。すなわち、仕事と組織との関係、仕事と個人や家族の生活との関係等について、さらにいえば、仕事と個人の人生との関係をどうとらえるべきかを再考しなければならないということです。その関係性に対して、働く場所と時間を自律的に選択できるテレワークという働き方が、どのように貢献しうるのか、テレワークで何ができるのかではなく、与件としてのテレワークに基づいて、仕事と個人の生活の変革がどのように進むのかを考えなければならなくなってきました。

今回の研究発表大会では、兵庫県淡路島における株式会社パソナの取り組みについて、同社取締役副社長の山本絹子様にご講演いただきます。また、ワーケーション、地域活性化、ワークライフバランスの取り組み事例の紹介や2025年の関西万博の最新情報提供なども予定しており、これらを知ることで、未来の生活像の創造を見据えた議論の端緒となることを期待しています。

【開催日程・会場】

日程：2023年9月30日(土)～10月1日(日) 研究発表は10月1日午前です。

会場：淡路市立しづかホール <http://shizukahall.com/access>

【発表申込】

発表要旨提出期限：2023年7月31日（月）

採択通知：2023年8月14日（月）

予稿集原稿提出期限：2023年9月11日（月）

【日本テレワーク学会誌 2023年号の情報】

2023年号への投稿締め切りは下記の通りです。

・研究論文・実践論文（査読付き） 2023年11月30日（木）

・特集論文・特集報告（査読なし） 2024年01月15日（月）

・研究報告・実践報告（査読なし） 2024年01月15日（月）

※2023年号への投稿について、論文本体については研究発表大会の原稿テンプレートを使用し提出してください。

以上

日本テレワーク学会淡路島大会

(第25回テレワーク学会研究発表大会)

The Future of Work beyond TELEWORK

—仕事の未来形：テレワークを超えて—

第25回日本テレワーク学会研究発表大会
(日本テレワーク学会淡路島大会)

大会委員長 市川 宏雄
実行委員長 加納 郁也

2023年9月30日(土) 14:00開会

講演者および講演テーマ・講演概要

基調講演①

淡路島で目指す Well-Being な地域づくりへの挑戦



伊藤 真人 (いとう まさと)

株式会社パソナグループ 常務執行役員/Regional Advantage 兼 Natureverse 本部長

○プロフィール

1994年パソナ入社後、神戸での阪神大震災からの復興事業や人材派遣サービスの営業責任者を経て、(株)パソナロジコム、(株)丹後王国・株式会社パソナ農援隊の代表取締役。丹後王国では道の駅・丹後王国「食のみやこ」の再生事業に関わり、道の駅や地域商社を通じた地域活性化事業に従事。2018年現職。「人を活かす」との企業理念を軸に、地域への「人材誘致」や「しごとの創出」に基づいた持続発展可能な地方創生事業の推進に取り組む。2025年大阪・関西万博のパソナグループバビリオンの担当も務める。

淡路島に本社機能の一部を移転して注目されているパソナグループの常務執行役員 伊藤 真人様をお迎えいたします。パソナグループは淡路島の新たな開発に注力しており、その地域開発の方向に関して報告いただきます。

基調講演②

2025年大阪・関西万博の最新動向



朝田 修平 (あさだ しゅうへい)

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会 機運醸成局企画部 審議役

○プロフィール

1988年積水ハウス株式会社入社。販売促進、個人住宅営業、営業/経営管理、広告宣伝等の業務を経験。2022年2月より、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会機運醸成局企画部にて広報プロモーション関連業務を担当。

1年半後に開催される大阪・関西万博の最新動向です。未来に向けた催しである万博で、変化する環境と共生可能な多様性に満ちた社会がいかにも実現するのか、期待を持って聞いていただきます。

【主催】日本テレワーク学会

【後援】兵庫県淡路県民局/淡路市/関西ベンチャー学会/

一般社団法人女性と地域活性推進機構

最先端事例報告① 『リモート』がもたらす人とロボットの新しい働き方



田中宏和（たなか ひろかず） リモートロボティクス株式会社 代表取締役社長

○1998年ソニー株式会社入社後、業務用VTR・カムコーダーの設計開発、ロボティクスカメラの商品企画に携わり、2005年より米国 Sony Electronics, Inc.で監視システムのプロダクトマネジメントを担当、2015年にセンシングモジュール事業 統括部長を経て、2021年12月よりリモートロボティクス株式会社 代表取締役社長としてロボットの遠隔操作に関するプラットフォームサービス事業を推進している。

日本企業の2社に1社が人手不足を感じる現代、一方で働きたくても働けない方が多くいるのも事実です。すべての人々が参加できるリモート社会の実現を目指すリモートロボティクスは、人手不足や現場の安心・安全に課題を抱える方々と今ある働き方に働きづらさを感じる方々をリモートロボットシステムでつなぎ、Remolink プラットフォームを通じて新しいワークスタイルを提案します。

最先端事例報告② テレワークを通じた人的交流をイノベーションへ



後藤 純次（ごとう じゅんじ） 株式会社阪技 代表取締役社長

○工業高校を卒業後、1983年阪急技術工業（現阪技）入社。取締役、常務、専務を経て2009年に社長就任。兵庫県出身。
○阪技（1981年設立、高砂市）。3D設計・開発、生産・品質技術、システム開発事業。従業員231人。人との交流をコンセプトとし、沖縄にサテライトオフィスを開設。サテライトオフィスを含め、全国8カ所に拠点を設置し、働く場所を問わない柔軟な働き方と幅広い活用に向け動き始めている。

「テレワークは、目的があってこそ」。当社は技術サービスの会社。学生やスタートアップとの交流をコンセプトに、三宮、沖縄にサテライトオフィスを構え、業務や目的に応じてテレワークを行っています。人的交流が新たな発想やイノベーションに繋がるとの想いで、オフィスを活用し、実際に成果を上げてきました。今回は、当社がテレワークを行う背景、具体的な取り組みと成果、現在地、そして今後の展望についてお伝えできればと思います。

最先端事例報告③ 働き方にみる未来形 ～100年時代のキャリアデザイン～



小宮 悦子（こみや えつこ） 株式会社フリーステーション 代表取締役

○看護師・介護支援専門員・抗加齢医学会認定指導士。神戸市出身。1983年看護師資格取得し企業系総合病院の手術室に勤務。1989年第1子出産後は救急外来や専門学校講師を経て、1992年より介護現場へ転職。在宅介護支援センターの立ち上げを経験し、ライフ「命・人生・暮らし」をサポートする仕事をしたいと考えるようになる。介護保険開始の翌年2001年に株式会社フリーステーション設立。長年、サポートを必要とする高齢者の方々の暮らしにかかわる中で、要介護高齢者を減らすことをしなければ超高齢社会の課題解決はできないと気づき、2015年より若い世代への健康関連事業を始める。

人生100年時代が目前となり、労働寿命の延伸という新たな課題が生まれました。定年という概念をなくし、ライフステージに合わせ働き方をシフトしながらキャリアデザインを構築していく必要を感じます。多様性を認め合いながら「生涯、楽しんで働く」ことができる会社を目指して取り組んでいる事例をご紹介します。

最先端事例報告④ とくしまサテライトオフィスプロジェクトの 過去・現在・未来



床桜 英二（とこざくら えいじ） 徳島文理大学総合政策学部教授 博士（経営学）

○徳島県職員を経て2015年より現職。2011年、地方振興総局長時代に「徳島サテライトオフィス・プロモーションチーム」を立ち上げるなど、サテライトオフィス集積数全国トップクラスの礎を築く。現在、（一社）地域プラットフォーム理事長として、オープンイノベーション方式による地域脱炭素DX推進プロジェクトの座長としても活躍している。主な著書は、「リーダーシップ好循環モデル」（2021中央経済社）。

首都圏のIT企業などのサテライトオフィスを過疎地域に誘致する官民連携の取組み—徳島サテライトオフィスプロジェクト（以下「SOプロジェクト」）—が始動したのは、東日本大震災発災の2011年からである。筆者はSOプロジェクトの提案者であったが、始動時には実現不可な「ばかなこと」として否定的な意見が多かった。それが、年を経るごとに「なるほど」に変化し、今や地方創生の切り札の一つとして位置づけられている。新たな危機であるコロナ禍を経て、今後、SOプロジェクトはどのような進化が期待されるのかを考える。

日本テレワーク学会淡路島大会 ※論文/報告発表プログラム

The Future of Work beyond TELEWORK – 仕事の未来形：テレワークを超えて –

■期 日 2023年10月1日(日) 9時15分～12時30分

■会 場 淡路市立しづかホール(兵庫県淡路市志筑新島5-4)

■ZOOMによる参加も可

	セッションA 発表(敬称略) テーマ:ワーケーション・デジタルノマド	セッションB 発表(敬称略) テーマ:戦略・人的資本・WLB	セッションC 発表(敬称略) テーマ:ポストコロナ・ワークプレイス
9:15～ 9:30	はじめに ご挨拶 加納郁也(大会実行委員長・兵庫県立大学) ●進行●事務局		
9:30～ 10:00	論文●発表者● 園 諸栄 追手門学院大学 ●発表テーマ● 地方自治体におけるワーケーション推進実態-九州地方における取り組みの比較分析 ●進行●中西穂高(帝京大学)	報告●発表者● 本多 毅 愛知大学 ●発表テーマ● テレワーク成果と競争戦略のアプローチの関係性 ●進行●奥野明子(甲南大学)	報告●発表者● 佐藤 修 東京経済大学 ●発表テーマ● パンデミック期のテレワーク文献研究 ●進行●佐藤彰男(龍谷大学)
10:00～ 10:30	報告●発表者● 鈴木幹一 富川久代 信州大学 福井県立大学 ●発表テーマ● ワーケーションの新分類 ～北陸新幹線ガストロノミーリズムから学ぶ～ ●進行●中西穂高(帝京大学)	論文●発表者● 山崎哲弘 大阪成蹊大学 高木修一 大阪公立大学 ●発表テーマ● テレワークが人材定着に与える効果と構造 ●進行●奥野明子(甲南大学)	論文●発表者● 濱野和佳 後藤学 (株)原子力安全システム研究所 ●発表テーマ● 新型コロナウイルス感染対策緩和段階におけるテレワークの状況 ●進行●佐藤彰男(龍谷大学)
10:30～ 11:00	報告●発表者● 武田かおり 社会保険労務士法人 NSR ●発表テーマ● 長期休暇取得のための「ワーケーション年休」 ●進行●鈴木幹一(信州大学)	論文●発表者● 辺見佳奈子 大阪商業大学 ●発表テーマ● テレワークと心理的資本の関係 ●進行●権丈英子(亜細亜大学)	報告●発表者● 眞崎昭彦 みずほリサーチ&テクノロジーズ(株) ●発表テーマ● 新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワークの課題 ●進行●吉澤康代(香川大学)
11:00～ 11:30	報告●発表者● 佐藤達郎 多摩美術大学 ●発表テーマ● テレワークと“新型移住” ～長野県富士見町での文化人類学的フィールドワーク調査を中心に～ ●進行●鈴木幹一(信州大学)	論文●発表者● 後藤学 濱野和佳 (株)原子力安全システム研究所 ●発表テーマ● テレワークの個人内効果に関する予備的調査 ●進行●権丈英子(亜細亜大学)	報告●発表者● 田澤由利 (株)テレワークマネジメント ●発表テーマ● コロナ禍による日本のテレワークの変化と今後についての考察 ●進行●吉澤康代(香川大学)
11:30～ 12:00	論文●発表者● 中西穂高 帝京大学 ●発表テーマ● テレワーク実施に伴う業務効率への影響---テレワークの再定義と業務内容の詳細化による検討 ●進行●中井秀樹(大阪成蹊大学)	論文●発表者● 脇夕希子 九州産業大学 三井雄一 西南学院大学 ●発表テーマ● 女性従業員の子供の有無と在宅勤務の有用性の検討 ●進行●福本恭子(兵庫大学)	報告●発表者● 床椋英二 徳島文理大学 ●発表テーマ● とくしまサテライトオフィスプロジェクトの過去・現在・未来 ●進行●佐藤修(東京経済大学)
12:00～ 12:30	●進行●中井秀樹(大阪成蹊大学)		
12:00～ 12:30	報告●発表者● 村田瑞枝 一社)日本テレワーク協会 ●発表テーマ● 新時代のテレワークの活用 ●進行●脇夕希子(九州産業大学)		
12:00～ 12:30	報告●発表者● 石崎真弓 ザイマックス不動産総合研究所 ●発表テーマ● ハイブリッドワークで変わるワークプレイスの重要性 ●進行●佐藤修(東京経済大学)		
12:30～	おわりに ご挨拶 市川宏雄(大会委員長・日本テレワーク学会会長・明治大学)		

注) 氏名・敬称略 プログラムの発表者、進行者は変更になる場合がございます。

日本テレワーク学会 淡路島大会

(第25回テレワーク学会研究発表大会)

The Future of Work beyond TELEWORK
——仕事の未来形：テレワークを超えて——

2023年

9月30日土

基調講演/先端事例報告等(午後2時～5時)

10月1日日

研究発表(24報告)(午前9時～午後1時)
＜詳細は9月下旬決定＞



【会場】淡路市立しづかホール

〒656-2132 兵庫県淡路市志筑新島5-4
新神戸・三宮方面から高速バスで約70分(バス停:しづかホール前)

参加費無料!
お申し込みはこちら▶



【主催】日本テレワーク学会 連絡先:taikai@telework-gakkai.jp <https://telework-gakkai.jp/>

【後援】淡路市 / 関西ベンチャー学会 / 一般社団法人女性と地域活性推進機構

日本テレワーク学会淡路島大会

(第25回テレワーク学会研究発表大会)

The Future of Work beyond TELEWORK

—仕事の未来形：テレワークを超えて—

大会内容

9月30日

14:00

開会の挨拶

大会委員長 市川 宏雄(日本テレワーク学会会長)

14:05

基調講演①

「パソナにおける淡路島地域開発の未来形」

株式会社パソナグループ 取締役副社長執行役員/事業開発本部長 山本 絹子 様

15:05

基調講演②

「2025年大阪・関西万博の最新動向」

(公社)2025年日本国際博覧会協会 機運醸成局企画部 審議役兼事業推進課長 朝田 修平 様

15:55

最先端事例報告

「『リモート』がもたらす人とロボットの新しい働き方」

リモートロボティクス株式会社 代表取締役社長 田中 宏和 様

「テレワークを通じた人的交流をイノベーション」

株式会社 阪技 代表取締役社長 後藤 純次 様

「働き方にみる未来形～100年時代のキャリアデザイン」

株式会社 フリーステーション 代表取締役 小宮 悦子 様

「とくしまサテライトオフィスプロジェクトの過去・現在・未来」

徳島文理大学総合政策学部教授 床桜 英二 様

18:00

懇親会 農家レストラン陽・燦燦

※会費制

(はる・さんさん)



10月1日



研究発表(24報告) <詳細は9月初旬決定>

主催

日本テレワーク学会

JAPAN TELEWORK SOCIETY

連絡先:taikai@telework-gakkai.jp

<https://telework-gakkai.jp/>

実行委員長：加納郁也(兵庫県立大学国際商経学部教授)



【後援】淡路市 / 関西ベンチャー学会 / 一般社団法人女性と地域活性推進機構